

令和6年度 江津市立桜江中学校 研究計画

研究部

1. 研究主題（3カ年計画／3年次）

情報を集めて整理し、その関係を明らかにしてわかりやすく表現しようと工夫する生徒の育成
～ 「情報活用の実践力」の育成を軸とした学習指導の充実 ～

2. 主題設定の理由

(1) 昨年度の対策の具体案

対策の具体案【全教育活動で行う】	
<p>①タブレット・図書館の積極的な活用 ◇問題解決型の授業を行い、資料収集の必要性を生む</p> <p>②情報モラル教育 ◇生徒指導・特活・総合的な学習の時間・技術分野・道徳科等からの多面的なアプローチ</p>	<p>③要約して書く・話す ◇ICT機器を用いたまとめ・発表 ◇プレゼンテーションソフト等の活用 ◇教科の特性に応じた効果的な表現方法のポイントを示す</p> <p>④自分の考えを表現する機会の確保 ◇考えを整理する時間の設定 ◇他の生徒と意見交換する機会の設定</p>

(2) 昨年度までの成果と課題

①全体として

＜教職員校内アンケートより＞

- 「校内研究テーマに基づき、授業を公開したり評価改善を図ったりしているか」「各教科及び行事等において、言語活動を取り入れているか」→肯定的回答 100%教員の授業改善への意識は高まったと捉えることができる

＜県学調より＞

- 現2年生 全ての教科が全国平均を上回るかほぼ同等で、良好。無回答率が低い。記述問題への積極的な取り組み。
- 現3年生 全体的にたいへん良好。無回答率が低い。記述問題への積極的な取り組み。



教員の授業改善への意識が高まっている

県学調の結果 2学年とも良好。思考力を問われる記述問題にも意欲的取り組み。

②情報収集能力・わかりやすく表現する力について

＜全国学調・校内アンケートより＞

- 情報収集能力についての肯定的回答 . . . 7割
- わかりやすく表現する力についての肯定的回答 . . . 9割



情報をさまざまな手段で収集しようとする・わかりやすく伝えようとする意識の向上。

③情報を整理する力について

<全国学調・県学調・校内アンケートより>

- 情報と情報の関係を理解すること、読み取ることに課題。

【課題のある問】

- ▲ 「情報と情報の関係について理解し、必要な情報に着目して、内容を解釈している」
26.7% (1年・国)
- ▲ 「与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現することができる。20.0% (1年・数)
- ▲ メールを読み、必要な情報を把握して適切なチケットを選んでいる。33.3%(1年・英)
- ▲ 水の深さと時間の関係をグラフに表し、読み取ることができる。8.3% (2年・数)
- ▲ 対話を読み、必要な情報を把握して文脈に応じた内容を判断している。33.3% (2年・英)



情報と情報の関係を把握する力が不足している。



表現の仕方について定着を目指す必要あり。

(3) 今後の取り組み

☆【情報の収集→整理→表現】の展開をさまざまな教育活動で繰り返す

<その中で>

- ◆ 社会にあふれている情報の中から、適切なものを選び出す力をつける
 - インターネット・図書資料の活用
 - ※情報収集の手段が手軽なインターネットに偏りがち
 - 情報の信頼性に留意させる
 - 図書資料の信頼性の高さを認識させる
 - 図書館活用の授業を増やす。(R5は少なく、生徒アンケートの結果も低)



さまざまな手段で情報を収集し、自ら選択できる力を育成する

- ◆ 相手意識をもつことを重視させる
 - 本校の生徒の強み…分かりやすく伝えようとする・話を最後まで聞こうとする姿勢
 - お互いに考えを伝え合う機会の確保
 - 伝え合ったあとに質問や感想を述べたり、アドバイスをし合ったりする活動の継続



相手意識をもって「分かりやすい」かどうかを確かめる力を育成する

3. 学校教育目標との関連

＜学校教育目標＞

生きる力を育てる

＜目指す生徒像＞

- ・ 深く考え、課題解決のために意欲的に努力する生徒（知） ← 目的をもって情報を収集・整理する
- ・ 自他を大切にし、思いやりを行動にあらわす生徒（徳） ← 相手意識をもったわかりやすい表現
- ・ 心身の健康を心がけ、体力の向上に取り組む生徒（体）
- ・ ふるさとに学び、よりよい社会を創造しようとする生徒（社）

4. 新学習指導要領との関連

＜文科省「教育の情報化に関する手引-追補版-(令和2年6月)」より＞

新学習指導要領においては、初めて「情報活用能力」を学習の基盤となる資質・能力と位置付け、教科等横断的にその育成を図るとともに、その育成のために必要な ICT 環境を整え、それらを適切に活用した学習活動の充実を図ることとしており、情報教育や教科等の指導における ICT 活用など、教育の情報化に関わる内容の一層の充実が図られた。

＜文科省「教育の情報化に関する手引-追補版-(令和2年6月)」より＞

第1章 第3節 学習指導要領における教育の情報化の位置付け

1. 学習指導要領における教育の情報化

(2) 中学校

- ・ 「総則」において、情報活用能力の育成を図るため、「コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図る」こと、また、「各種の統計資料や新聞、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること」とした。
- ・ 小学校でプログラミング教育が必修化されたことなどを踏まえ、技術・家庭科（技術分野）「情報の技術」において双方向性のあるコンテンツのプログラミングが追加されるなど内容の充実が図られ、「生活や社会を支える情報の技術」「ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決」「計測・制御のプログラミングによる問題の解決」「社会の発展と情報技術」を全ての生徒に履修させることとした。

5. 研究の目的

情報を収集・整理し、その関係を明らかにしてわかりやすく表現しようと工夫する生徒の育成に向けて、情報活用の実践力を軸とした学習支援の在り方を探る。

<文科省「教育の情報化に関する手引-追補版-(令和2年6月)」より>

第2章 第1節

2. 情報活用能力の育成に係る「3観点8要素」

情報活用の実践力

- ・ 課題や目的に応じた情報手段の適切な活用
- ・ 必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造
- ・ 受け手の状況などを踏まえた発信・伝達

情報の科学的な理解

- ・ 情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解
- ・ 情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解

情報社会に参画する態度

- ・ 社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響の理解
- ・ 情報のモラルの必要性や情報に対する責任
- ・ 望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

特にこれ

6. 研究内容

昨年度同様、授業改善を柱に研究を推進することとし、特に「情報活用の実践力」を高めるための重点として、次のことに取り組むこととする。

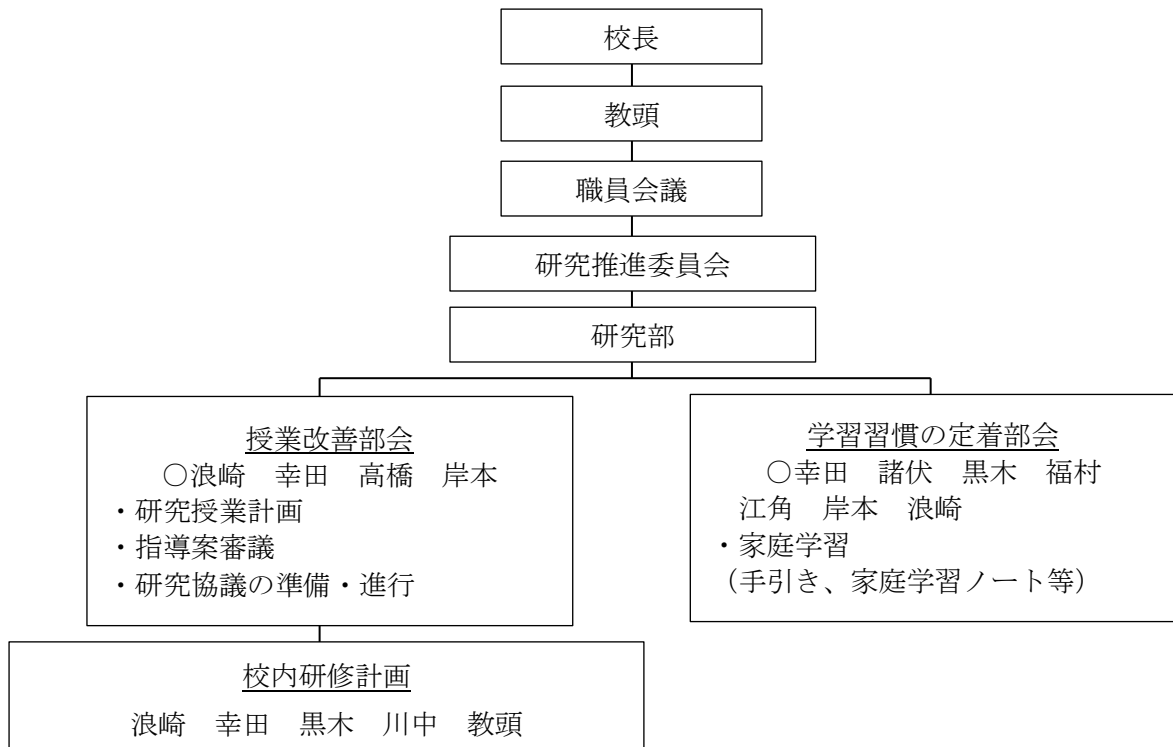
<授業改善の視点>

問題解決型（探究型）の授業展開の中で、

- ① さまざまな手段で情報を収集し、自ら選択できる力を育成する
- ② 相手意識をもって「分かりやすい」かどうかを適切に判断し、表現する力を育成する

さらに、授業づくりの基本として、ねらい（めあて）の明確化と振り返りの場面の充実を図る。

7. 研究組織



(1) 授業改善部会

- ・ 研究授業、研究協議の在り方を探る。(校内公開研究授業、事務所・市教委訪問指導)
- ・ 学習指導案について、形態や内容の審議を行う。

(2) 学習習慣の定着部会

- ・ 「家庭学習の手引き」作成 → 計画的な学習へつなげる
- ・ 家庭学習ノートの質向上に向けての提案 → 目的をもった学習へつなげる
- ・ 朝読書の指導／改善

8. 検証方法

- ・ 国、県の調査を活用する。
- ・ 校内アンケート調査を活用する。(生徒、教員)

9. その他

- ・ 今年度、年間を通じて
初任者研修 (岸本)・3年目研修 (江角・諸伏) 6年目研修 (福村) があります。
ご協力よろしく申し上げます。